

## 第3回 ダム事業のプログラム評価に関する検討委員会 議事要旨

日時：平成14年11月14日(木) 15:00～17:00

場所：国土交通省会議室(中央合同庁舎第3号館4階 特別会議室)

### 1. ダム事業評価に関するプログラム評価の対象範囲と枠組み

- ・政策目標の「安全」、「暮らし」、「環境」という表現では横並びになっていない印象を受けるので、表現を工夫すべき。

### 2. 治水・利水の必要性、ダム事業の役割

#### 1) 治水

- ・「(堤防の)平常時には明らかにならない弱部を内在する可能性」については、堤防が土の構造物でその構造が不明瞭であることなど、分かり易く表現すべき。
- ・水防活動の効果については、漏水だけでなく、越水破堤も含め工夫して表現すべき。

#### 2) 利水

- ・利水の問題について、既得水利を優先するという水利秩序の前提があることを記述すべき。
- ・利水に厳しい社会条件についての記述が見られない、都市的な土地利用による水需要の変化、流域下水道等により水循環が変化してきていることを記述すべき。

### 3. ダム事業を巡る課題とその対応

#### 1) 地域社会

- ・高齢化、過疎化している地域の人々の生活を激変させるのがダムの問題。若い人なら金で生活パターン変えられるが、高齢者は変えられない。この点に留意して表現に工夫が必要。
- ・様々な社会的影響は、対応について、計画段階、実施段階、事業の実施後の段階に分けて示す必要がある。

#### 2) 自然環境

- ・「自然環境への影響」の記述を充実すべき。
- ・「環境アセスメント」の記述を充実すべき。
- ・ダムは環境に大きなダメージを与える一方、積極的に環境を創出することもある。マイナス面もあるが、積極的にプラス面も示すべき。

#### 3) 湧水被害ポテンシャルの増大

- ・「渇水時のリタンダンシーの確保とトレードオフの関係になる」ことについては、節水型社会、渇水対策を進めてはいけないと読めるので表現を工夫する必要がある。
- ・工業用水だけが高効率化しているのが現状。渇水時にはそこに規制がかかることにより、リスクを高めている構造を明らかにすべき。

### 3) その他

- ・対応の効果についても書き込む必要がある。
- ・対応については、全ダムを対象とするのか、特定のダムを対象にするのか明確にすべき。
- ・問題の指摘に対する対応や今後の取り組みについて、どのような評価を行ってきたかを追記すべき。

## 4. ダム事業を巡る話題

- ・米国と日本のダムの総貯水量の比較について、利水安全度でどのくらいになるかも示すことが必要。
- ・世界事例は、アメリカ以外の国々の事例もできるだけ記述すべき。

## 5. その他

- ・近年の少雨傾向により河川流量が低下し、ダムの実力が低下については、少雨傾向でダムが溜まりにくくなっていることを併記すべき。
  - ・「風水害の人的被害」については、水害のみを記述することはできないか。
- (以上)